

くまの 議会だより

気をつけて
行ってらっしゃい!

令和3年
12月定例会

筆の都くまの

熊野町観光大使
ふでりん



主な内容

- 令和3年度補正予算（12月を可決）
- 議会全員協議会
- ズバリ町政を問う!

第121号
2022.2.1

熊野町議会のホームページから、本会議の会議録や議会中継をご覧ください

12月定例会 ことなこ

令和3年度 一般会計補正予算（4号、5号）を可決
7億1,163万円の増額 総額105億1,808万円に

注目補正事業をピックアップ

廃棄物中間処理・最終処分手業 387万円増額

ごみ処理量の増加に伴う中間処理等業務委託料の増



Q. ごみが増えた理由は。

A. コロナ禍で外食が減り、廃プラなどが増えた事が原因だと考えられる。

町道局部改良事業 690万円増額

町道昭和線の狭い区間を拡幅改良するための工事費等を計上



▲町道昭和線（通行時の状況）

Q. 位置はどの辺りか。

A. 出来庭一丁目付近の狭い部の拡幅改良を考えている。

災害予防及び応急対策事業 213万円増額

西・東防災交流センターへの避難所誘導看板作成等



▲【イメージ】熊野東防災交流センター

Q. 避難所の入り口がわかりにくい（目立ちにくい）が看板の設置は。

A. センター南側の県道に看板を設置するように準備を進めている。今年度中の完成を目指している。

子育て世帯への臨時特別給付金事業 1億8,615万円（新規）

コロナ禍により苦しんでいる子育て世帯を支援するため1人あたり10万円給付



Q. クーポン券をやめ、現金10万円にした理由は。

A. 子育て世帯対象事業で町内では限られた物しか購入できないため、幅広い対応ができるようにした。

（各ページの数値については表記単位未満を四捨五入しています）

が決まりました！

報告1件・議案14件の中から5件をピックアップ

「熊野町国民健康保険条例の一部を改正する条例」を可決

産科医療補償制度の見直しにより、当該制度の掛け金が1万6千円から1万2千円に4千円引き下げられるが、少子化対策の重要性を鑑み、出産育児一時金は支給額を4千円引き上げて支給総額の42万円を維持する。



「熊野町国民健康保険税条例の一部を改正する条例」を可決

子育て世帯の経済的負担軽減の観点から未就学児に関わる均等割り額についてその5割を公費により軽減する。例えば、今まで7割軽減の世帯では残りの3割を自己負担していたが、3割の半分1.5割プラスされて8.5割軽減になる。



「熊野町施設の指定管理者の指定」を可決

次の施設の指定管理者を指定した。

- ①くまの・みらい保育園
指定管理者 社会福祉法人微妙福祉会
指定期間 令和4年4月1日～令和9年3月31日（5年間）
- ②熊野西ふれあい館
指定管理者 一般社団法人熊野町シルバー人材センター
指定期間 令和4年4月1日～令和7年3月31日（3年間）
- ③熊野町地域福祉会館
指定管理者 社会福祉法人熊野町社会福祉協議会
指定期間 令和4年4月1日～令和9年3月31日（5年間）
- ④熊野町環境事務所
指定管理者 一般社団法人熊野町シルバー人材センター
指定期間 令和4年4月1日～令和7年3月31日（3年間）



▲くまの・みらい保育園



▲熊野町環境事務所

「熊野町指定金融機関の指定」を可決

広島県信用組合を令和4年度以降の熊野町指定金融機関に指定した。広島県信用組合と安芸農業協同組合が交代制で業務を行っていたが、長引く低金利の影響等により無償での受託が困難となり両者から提示された負担金額等を比較した結果による。

議会全員

令和3年11月30日に開催しました。

①行政手続等における押印の見直しについて

申請手続のオンライン化の促進、デジタル化の推進に向けた取り組みの第一歩として、押印の見直しを実施し、住民の負担軽減及び利便性向上を図る。

押印廃止	○認印は、原則として押印廃止 ※本人確認等を求める代替手段を講じる。
押印継続	○記名押印が義務付けられている契約書等 ○入札及び契約手続に係る書類



主な質疑

Q. 訂正印の必要なケースではどのような対応になるのか。

A. 面前での訂正や差し替えなどの対応をとることになると想定しているが、手続きによって異なるため詳細は今後詰めていく。

Q. 本人確認書類はどうなるか。

A. 現在の対応どおり、顔写真付きの証明であれば1つ、顔写真なしの場合2つ以上になるが、簡易なものに関しては個々の申請内容や書類に応じて押印廃止に際して、これから詰めていく。

Q. 押印がないと最終文書かどうか確認が取りにくいと思うが。

A. 現在、庁内事務、会計事務においては押印をしている。今後は、電子決裁をすることが増えると想定されシステム上で起案者、決裁者の確認をしていくことになる。リモートワークが広がる中で押印廃止の流れは必要と考える。

②新型コロナワクチン接種について（現在の計画と異なる部分があります。）

今後の接種計画について

- 未接種者（予約済者を除く）に対する勧奨通知書の発送をする。
- 令和4年2月頃から小児（5歳以上11歳以下）への接種を開始する体制を構築する。
- 当面は薬事承認されているファイザー社ワクチンを使用。

3回目接種のスケジュール（予定）

2回目接種月	令和3年 3・4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月																											
3回目接種月（8か月後）	12月	令和4年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月																											
接種時期	<table border="1"> <tr> <td>医療従事者</td> <td colspan="2">→</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>高齢者施設入所者等</td> <td></td> <td colspan="3">→</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>一般住民</td> <td></td> <td colspan="7">→</td> </tr> </table>								医療従事者	→								高齢者施設入所者等		→							一般住民		→						
医療従事者	→																																		
高齢者施設入所者等		→																																	
一般住民		→																																	

※接種券の発送時期は、3回目接種時期の前月を目安とし、届き次第、予約が可能

協議会

主な4件をピックアップ

③「熊野町下水道事業の設置等に関する条例案」について

総務省より、令和5年度までに人口3万人未満の地方自治体において、公営企業会計への移行が求められた。通知に基づき、特別会計で事業運営してきた下水道事業について、地方公営企業法を適用する。

地方公営企業法の適用方針については範囲を一部適用（財務適用）とし、令和4年4月より適用する。



▲町章の周りに熊野筆を描いたデザインのマンホール

Q. 消費税の節税効果はどの程度見込んでいるか。

A. 数百万円単位になると思われる。

④タブレット端末導入について（議会協議）

議会及び町執行部における資料等の印刷にかかる経費や、ペーパーレスによる環境負荷の軽減、情報伝達の迅速化の効果を目指す。令和3年12月議会での議決を経て「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金」を活用する。

協議内容

- 国の交付金の活用範囲は。
 - イニシャルコスト、整備に対し10/10活用可能。
- 導入当初は紙とタブレットの併用か。期限を設けるのか。
 - 他市町の先行事例として、苦手な議員が紙のまま聞くことがあるが、1年程度を目途に本格導入に向け、委員会等で慣れてほしい。
- ルール作りはどのようにするのか。
 - 一定のルールは必要である。導入までに決める必要がある。

結論

ネットワーク整備のほかタブレット端末の導入に向けて、準備を進める。

※議会全員協議会とは・・・

町政全般にかかわる事項や、議会の運営に関する事項などを協議するため、議員全員で行う会議です。一般に町政に関する重要な事案や町議会内部の事項について報告・協議するため、熊野町議会においては、定期的開催しています。



ズバリ 町政を問う!

一般質問とは?

定例会で、議員が町の施策の状況や方針などについて報告・説明を求め、疑問点を質したり政策を提案することを一般質問といいます。
発言時間は1人答弁含め、60分以内としています。

タイトル: 熊野東中学校2年 山本 京佳さん

ただ

皆さんの「暮らし」にかかわることを、議員が質問をしました。

ページ	質問者	質問事項
7	中島 数宜 議員	1. サロンの活性化に向けた支援は 2. タブレット教育の現在の状況は
8	水原 耕一 議員	1. ゼロ・ウェイストに対する町の考えは 2. おでかけ号の今後の方向性は
9	沖田 ゆかり 議員	1. 重層的支援体制の整備を 2. 熊野の子どもは熊野で育てる教育を
10	光本 一也 議員	1. 「危険な通学路」箇所数、安全対策は 2. 特殊詐欺の現状と被害防止対策は
11	福垣内 邦治 議員	1. 広熊トンネル熊野出口付近の直進2車線化を求める 2. 今後の県道矢野安浦線の延伸は
12	荒瀧 穂積 議員	1. 県道矢野安浦線バイパス延伸。町長の所見は
	諏訪本 光 議員	1. 県議会、筆製造技術を県文化財へ。熊野町は

※ 紙面の関係により、質疑の一部のみを掲載させていただいています。
また、分かりやすい紙面にするために、趣旨が変わらない程度の編集を行っています。
なお、熊野町議会のホームページ (<http://www.town.kumano.hiroshima.jp>) から、一般質問の全ての内容を視聴することができます。



中島 数宜 議員

Q サロンの活性化に向けた支援は

A 町長

現在の補助事業の中で工夫していただき、各地域の実情に沿った取り組みを願う。

【A2】 地区社協には、町の補助事業として町社協を通じ、参加者数等に

【Q2】 サロン参加者に増加

【A1】 行動制限も少しずつ緩和されているが、第6波の感染拡大への不安もあり、すぐに元の状況に戻るの難しい。感染対策を行いながら粘り強く参加に向けた声掛けを継続的に行っていただきたいと考えている。現在の補助金の中で事業を進めていただきたい。

【Q1】 新型コロナウイルス感染拡大により、サロン活動への参加者が減少傾向にある。地方創生臨時交付金等を活用し、参加者増加の支援ができないか。



▲ サロン活動

【Q3】 このような状況が続くと地区社協のサロン活動が存続できなくなるのではないかと危惧している。

【A3】 町社協も補助金の在り方について検討している。町社協と一緒に知恵を絞っていききたい。

Q タブレット教育の現在の状況は

A 教育部長

端末操作にも慣れ、自分の考えや意見を積極的に発表する姿が見られる。

【Q3】 東京都ではネットを利用したいじめが発生し、女児が自殺したとの報道がある。

【A2】 小学校4年生以上には、夏休みに家庭に持ち帰らせ、夏休みの課題に取り組みさせる等、コロナ禍においても学びを止めない取り組みを進めている。

【Q1】 児童生徒宅の通信環境は整ったか。

【A1】 今年の5月に通信環境のアンケート調査を行った。通信環境がない世帯は48世帯であった。「熊野町就学援助世帯通信環境整備費等補助金交付要綱」を制定し、整備できるような体制を整えた。



▲ タブレット端末を利用した授業

【Q4】 端末での入力が進むと書く力がなくなっていくのではないか。

【A4】 学力向上には書くことも重要である。手書きが不慣れな低学年は国語科等手書きを中心とした授業に取り組んでいる。

【A3】 ガイドラインの遵守、セキュリティ対策・指導はどのように取り組んでいるか。

事件を誘発した原因にチャット機能とパスワードの管理が挙げられている。町が貸与している端末はチャット機能に規制をかけ、中学校では個別パスワードの管理を行っている。



町長 水原 耕一 議員

Q ゼロ・ウェイストに対する町の考えは

A 町長

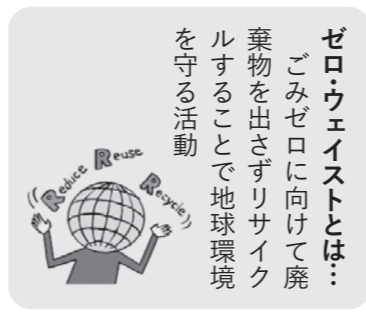
ごみ減量の取り組みを継続していく。

【Q1】 昨年度のごみの処分費の金額は。また、リサイクル率はどれくらいあるか。
【A1】 令和2年度のごみの処分に要した費用は約3億1635万円で、リサイクル率は22.6%となっている。

【Q2】 リサイクルの意識付けのために処分費の金額や、資源ごみ、有害ごみなどで何に変わるのか等を、広報紙等で紹介できないか。
【A2】 廃棄物に関する住民意識の変化が期待できると考える。効果的な啓発方法を検討する。

【Q3】 生ごみ処理機の購入補助制度があるが内容は。
【A3】 予算額は10万円で、購入費の二分の一（電動生ごみ処理機上限2万円、コンポスター等上限3千円、シマミミズ利用の生ごみ堆肥化容器上限7千円）の補助になっている。

【Q4】 まだ使用できる大型ごみを集めて、町民の方へ提供できる場は作れないか。
【A4】 ごみ量の削減や物を大切にすることを意識の啓発になるが、費用や施設の問題もあり現在では難しいと考える。



ゼロ・ウェイストとは：ごみゼロに向けて廃棄物を出さずリサイクルすることで地球環境を守る活動



おでかけ号

Q おでかけ号の今後の方向性は

A 町長

今後もニーズに応じた運行をしていく。

【Q1】 ニーズに応じるため、増便や、乗車する人がいない停留所があれば新ルートの考えも必要になってくると思うが。
【A1】 増便や大幅なルート変更の予定はないが、今後の地域公共交通計画等により見直す可能性はある。

【Q2】 おでかけ号は基金を切り崩しての運営方法だが、今の状況は。
【A2】 運行費は年間約1100万円で、十年間は運行できると考える。

【Q3】 継続的な運行のため一つの案だが、企業から協賛金を募るとか、安価な金額で乗れるコミュニティバスにする等があるが、町の考えは。
【A3】 収入源も検討していく必要があるが、有償にするには様々な制約がかかる。例えば狭い道での停留所の設置や、離合できる場所の確保等の工事を行う必要性があるため、慎重に検討したい。

【Q4】 住民の移動手段の確保をするため「地域公共交通確保維持改善補助金」が創設されている。この制度を上手く使えないか。
【A4】 この補助金を使い「地域公共交通計画」策定のため、データー収集やアンケート等の実施、短期間の実証調査等を行う予定でいる。



議員 沖田 ゆかり

Q 重層的支援体制の整備を

A 町長

地域福祉計画に盛り込む予定である。

【Q1】 80代の親が50代の子を養う8050問題など、家族間で複数の問題を抱えるケースに対し、どのように対応しているか。
【A1】 家族や本人の意思に寄り添いつつ、他部署や他機関の担当者と連携して、家庭訪問などをして、介入の糸口となるリスクや、本人に働きかけるチャンスが多様な角度から模索しながら支援を行っている。

【Q2】 福祉関係部局だけではなく、町営住宅の家賃や水道料金を滞納している方など各担当課と情報共有することで早期発見できるのではないか。
【A2】 現在では連携が取れていても人事異動があった際にうまく引継ぎがされていないと、支援が途切れてしまうことにつながる必要がある。

【Q3】 窓口対応についてはご迷惑をおかけすることがある。継続した支援については保健師などの専門職が担当しているので大丈夫と思う。
【A3】 重層的支援体制とは：制度ごとではなく、課題を抱えている本人や家族を丸ごと包括的に支援する体制

重層的支援体制とは：制度ごとではなく、課題を抱えている本人や家族を丸ごと包括的に支援する体制

Q 熊野の子どもは熊野で育てる教育を

A 教育長

ふるさと熊野に愛情と誇りを持ち、熊野で学んでよかったと思える教育活動を進めていく。

【Q1】 学び続ける力の育成について、自ら考え、思いを語ることができ力を付けていく、もっと学びたいと思える課題を与えていくのと、こゝろが具体的な取り組みは。
【A1】 本年度、取り組んだ事例では、熊野中学校の3年生が東防災交流センターで避難所開設の体験をする中で、自ら課題を発見し、解決していく学習に取り組んだ。

【Q2】 ふるさと教育の推進で、教育長が最も力を入れている取り組みとは。
【A2】 地域とのつながりの中で学び、他者を大切にすること、思いやりを持つこと、協働して新たな価値をつくること

【Q3】 コミュニティスクールの取り組みについて。
【A3】 地域の方々にどのように学校教育に参画していただくか先進事例を参考に、できることから取り組みを進めていく。



コミュニティスクールとは：地域住民が学校運営に参画できるようにする仕組みや考え方を有する形態の学校のこと



光本 一也 議員

Q 「危険な通学路」箇所数、安全対策は

A 町長

19か所。カーブミラーの調整、道路外側線の引き直しなどを実施している。

【Q1】今年6月に千葉県八街市で発生した下校途中の交通死傷事故を受け、本町が実施した危険な通学路の総点検の内容と結果、事故防止対策は。

【A1】学校から報告のあった19か所の危険箇所を県西部建設事務所、海田警察署、町が合同点検を行い、カーブミラーの調整や道路外側線の引き直し等を行う。

【Q2】県道の抜け道になっている大変危険な第一小学校通学路に「ゾーン30プラス」の整備を県警に要望してほしい。

【A2】新たな施策「ゾーン30プラス」は、地域住民の理解が必要である。今後、事例等を参考に調査研究したい。

【Q3】「ゾーン30プラス」とは、時速30キロ制限の交通規制「ゾーン30」と路面を隆起させる「ハンブ」など車の減速を促すハード対策を組み合わせた施策。

【A3】国は、通学路や避難路に面した危険なブロック塀等の撤去及び建替え費用の補助制度を創設し、自治体に事業実施を促している。本町も直ちに制度創設すべきである。



▲危険なブロック塀

Q 特殊詐欺の現状と被害防止対策は

A 住民生活部長

毎年、町内で被害が発生。警察と連携し、注意を呼び掛ける。



【Q1】本町の特殊詐欺の認知件数と被害額は。被害者の年齢層は。

【A1】令和元年1件、38万2千円。令和2年1件、450万8千円。令和3年(10月末迄)2件、304万円。被害者の約80%が65歳以上の高齢者である。

【Q2】町が取り組んでいる高齢者を特殊詐欺から守る被害防止対策は。

【A2】警察OBの専門員による町内巡回、町ホームページでの注意喚起、消費生活相談員などによる出前講座等を行っている。

【Q3】町が被害防止のチラシを作成し、地域の民生委員さんにチラシ配布と注意喚起をお願いしているか。

【A3】民生委員協議会に相談し、訪問活動時にチラシを配布していただくよう協力をお願いしたい。

【Q4】県警は被害防止に効果がある防犯機能付き電話機の設置を呼び掛けている。県内では呉市などが、この電話機の購入補助金制度を創設している。本町も制度導入を考えてほしい。

【A4】制度創設について検討したい。防犯機能付き電話機とは、詐欺や迷惑電話への対策機能を有する電話機。非通知等の怪しい電話を自動でシャットアウト、録音していることを相手に自動で伝える、着信ランプの色で相手を確認できるなどの機能がある。



福垣内 邦治 議員

Q 広熊トンネル熊野出口付近の直進2車線化を求める

A 町長

県において工事着手に向けた準備が進んでいるように聞いている。



▲平谷交差点の状況

【Q1】無料化より約1年、日中でもトンネル内で渋滞を起こしている。右折は2車線あるのに対して直進は1車線。多くの町民から見ても得いかな。

【A1】直進を2車線にして欲しいとの町民の声が多々あることは承知している。
【Q2】強くトンネル熊野側出口の直進2車線化をお願いしていただきたい。
【A2】交通量の多くは直進車両であり、現在その傾向だと思われる。道路管理者である県へ早期の対策を働きかけていく。

Q 今後の県道矢野安浦線の延伸は

A 建設農林部長

東広島市に連絡する熊野黒瀬トンネル方面に円滑に連絡することが望ましい。



▲県道矢野安浦線

【Q1】他町で見たが「県道推進室」なりの設置を考えることはできないか。
【A1】現在、建設課で対応している。現組織体制で効率的、積極的に取り組んでいきたい。
【Q2】県庁及び西部建設事務所等との連携は。
【A2】最近では県庁等関係機関への要望活動を10

月に実施した。引き続き県と連携を図りながら、将来的な事業化に向けても要望していく。
【Q3】「県道だより」との広報物を他町で見た。これもまた一案かと思うか。
【A3】情報発信の在り方については、今後の事業進捗等も踏まえて、県とも調整しながら積極的に検討していく。

防災関連施設等の工事状況を確認

総務厚生委員会

11月30日に総務厚生委員会を開催し、防災関連施設等の工事進捗状況の確認を行い、その後熊野東防災交流センターにおいて意見交換並びに質疑を行いました。

[確認施設]

●熊野西防災交流センター

くまの・みらい交流館に隣接して建設されており、シャワー室やペット同行避難場所など避難施設の充実を図ることを目的として、令和3年度末の完成を目前に現在工事が進められている。完成後は西部方面の防災拠点施設として利用される。



▲ 工事の進捗状況を確認

●防災行政無線再送信子局（中継局）設置

令和3年度に防災行政無線のデジタル化が完了したが、初神・新宮地域の一部で戸別受信機本体だけでは受信できない地域があり、通信環境改善のため深原公園敷地内に再送信子局（中継局）の設置が令和3年度末の完成を目指して工事が進められている。



▲ 深原公園敷地内の中継子局

●筆の里工房周辺整備事業

筆の里工房周辺は、観光交流拠点として公園整備事業が計画されているが、平成30年の豪雨災害の影響等により工事が中断していた。昨年度より駐車場の整備工事がスタートした。早期の完成により町民の憩いの場となることを期待している。



▲ 整備の進捗状況を確認

[意見交換・質疑]

防災関連施設等の確認後、熊野東防災交流センターで当該施設の利用状況等について意見交換、質疑を行いました。

Q1 開設後の利用者の状況は

A1 11月末までの総入館者は3,996人となっている。

Q2 7月、8月の避難情報発令時の状況は

A2 最多避難者数（定時報告）は、7月は8日の35世帯、68人、ペット5匹。一時的には81人が避難した。8月では14日の25世帯、54人、ペット5匹の避難があった。



▲ 防災ホールでセンターの利用状況等について確認しました

最後に、施設の立地条件等を考慮し、利用者の増加に向けた取組みを町に要望しました。



荒瀬 穂積 議員

Q 県道矢野安浦線バイパス延伸。町長の所見は

A 町長

引き続き国の個別補助制度を活用いただき、県と連携し、5・6年で道筋をつけていきたい。



▲ 県道矢野安浦線バイパス

【Q1】 町内道路は、慢性的渋滞である。原因は明らかである。広熊トンネル2本化や町内道路未整備のまま無料化したから。国道化を考えた。議会も特別委員会を設置して検討しよう。町長から国県への要望を含め、所見を求めたい。

【A1】 バイパス延伸の工期などはまだ未定である。県の道路整備計画に位置づけられ、国の個別補助制度を活用して重点的に支援を受けながら実施する旨を聞いています。道路事業は99%が用地買収と言っても良い。住民の協力を得て5・6年で道筋をつけたい。ここ10年以内だと思っている。

Q “県議会、筆製造技術を県文化財へ。熊野町は

A 総務部長

熊野筆の製造技術の保存と伝承等を目的に、来年度の申請に向けて準備を進めている。



諏訪本 光 議員

【Q1】 筆製造技術の文化的価値を高めることとなり、大変良いことだ。大切なことは、この技術を如何にして次代へ引き継ぐかだが、町の考えは。

【A1】 筆組合が筆製造技術研修会事業等を実施し、後継者の育成に取り組んでいると聞いている。

【Q2】 技術の継承や後継者の育成について、町は問題意識を持っているか。

【A2】 主要な伝統産業を守るうえで、大きな課題として認識している。

【Q3】 聞くところによると、数年前に専門的技術者を集め「筆センター」を整備して、仕事を集約している。

【A3】 町は把握していない。筆組合に確認したが分からなかった。

【Q4】 機会を見て調査してもらいたい。この「筆センター」を筆の里工房と関連させても良いのではないかと、観光事業等への期待もできる。

【A4】 いろんな取り組みや方法があると思う。協議を進め、関係機関や民間の取り組みを支援したい。

【Q5】 筆文化の後退、材料の確保、職人養成など多くの課題を抱えている。



町内教育施設を調査

文教委員会

11月24日に、小中学校6校の施設点検を行いました。
また、12月17日に、3つの社会教育施設の点検を行いました。

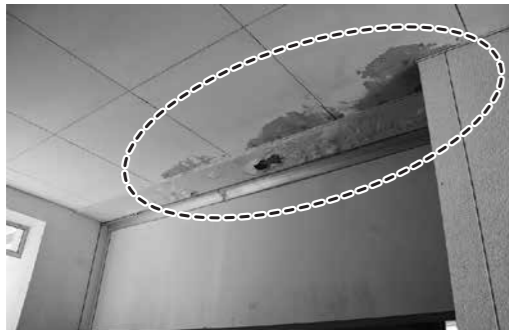
小中学校の施設点検

児童・生徒の教育環境の実態を把握するため、各小中学校を訪問し、現場の声を聞きながら、学校施設の劣化状況等を確認して回りました。

校内に危険な箇所はないか、安全は確保されているか、工事や修繕状況はどうか等に重点を置き点検した後、各校長から要望事項を伺いました。

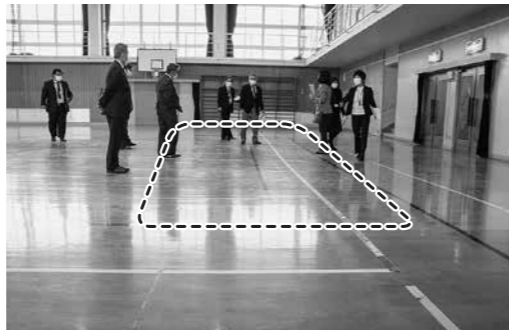
小中学校の耐震補強工事はすべて終了しましたが、経年劣化による、雨漏りや塗装のはがれなどが多く見られました。

(熊野東中学校)



▲ 美術室前渡り廊下入り口天井の雨漏り

(熊野第一小学校)



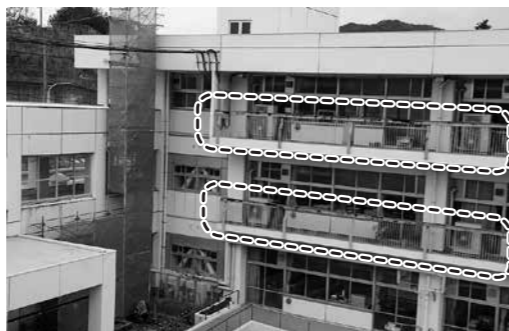
▲ 体育館 正面入り口付近の床のたわみ

(熊野第二小学校)



▲ 南校舎南面のコンクリートのはがれ

(熊野第四小学校)



▲ 北校舎 手すりのさび

当委員会では引き続き、安全・安心かつ快適に利用できる教育施設の整備に向け、調査・要望していきます。

県道矢野安浦線工事の進捗等を確認

産業建設委員会

11月5日に委員会を開催し、建設農林部及び水道部各課からの説明の後、次のとおり質疑しました。

○令和3年度の主要事業の実績と進捗状況について

Q1 筆の里工房周辺整備事業について、県の砂防事業工事との調整について説明を。

A1 公園の奥に、県が砂防堰堤を2基作る予定となっている。公園整備に関して県と協議をしながら、砂防堰堤工事を優先して計画を進めていきたいと考えている。

Q2 萩原交差点付近が大雨のたびに冠水しているが、町の対応はどうか。

A2 県と連携しながら排水について、流域の調査を昨年始めた。どのような工事が必要か検討している。

○県道矢野安浦線道路改良事業の進捗状況について

Q1 ハローズ前の道路の脇に広いスペースがあるが、どのような計画になっているか。

A1 今は2車線だが、将来的にはトンネルを出たところから4車線になる計画となっている。

Q2 県道矢野安浦線の延長先は黒瀬方面までつながるのか。

A2 今現在の計画では阿戸別れ交差点であるが、熊野黒瀬トンネル方面につなげるのも一案と考えており、要望していく。

Q3 トンネル無料化により渋滞が増え、狭い町道まで車の進入が目立つ。事故の情報はないか。

A3 事故が増えたとの情報はないが、危険な状況になっていることは認識している。警察とも協議していく。



▲ 新設された県道 (ハローズ前)

今後も当委員会の所管事務分野において、主要事業の実施状況等を確認し、住民生活の利便性向上と安全性の確保に努めていきます。

ひとこと

熊野町の町花・町木である梅の開花便りが聞こえ始め、春が待ち遠しい季節になってまいりました。

ワクチンの三回目接種が進められ、感染症と共存し日常生活が元に戻ることを願っております。3月の定例会では、新年度予算が審議され、まちづくりに向けた新しい事業が進められることとなります。

町民の皆さまに、議会への関心をより一層、持ってもらえるよう今年も分かりやすい紙面になるよう心掛けてまいります。
竹爪 憲吾

次の定例会は

3月8日
(火曜日)

開会を予定しています

議会だより題字

小田原正龍さん

交通事故から子どもと高齢者を守る！

～安芸地区交通安全協会熊野支部～

年末交通事故防止県民総ぐるみ運動期間中（12月1日～10日）の早朝、安芸地区交通安全協会熊野支部（河原超支部長）の皆さんが各小学校の通学路で、児童の安全な登校に向けた早朝交通指導をされました。協会の皆さんに活動や課題についてお話を伺いました。



▲安芸地区交通安全協会熊野支部

Q 安全協会熊野支部の紹介をお願いします。

A 私たちは、交通事故のない安全・安心のまちづくりを目指し、海田警察署と連携しながら交通安全啓発のボランティア活動を行っています。

メンバーは、現在9人

で頑張っています。
Q 活動のモットーを教えてください。

A 交通事故から子どもと高齢者を守ることを第一に活動しています。



▲通学路での早朝交通指導の様子

Q 活動内容を詳しく教えてください。

A 春夏秋冬の交通安全運動期間中に各小学校の通学路で早朝交通指導を実施しています。また、この時期には自治会、女性会、老人クラブ等にも参加いただいで町内3か所での街頭キャンペーンも行っています。

7月には、町内のショッピングセンターで保育園

児の皆さんと一緒に交通事故防止啓発活動の七夕キャンペーンを実施しています。

小中学生の皆さんには、自動車学校などで正しい自転車の乗り方などを習得するための交通安全教室を行っています。その他、筆まつりや熊野駅伝大会等のイベント時にも交通誘導整理を行っています。



▲小学生対象の交通安全教室

Q どんな時にやりがいを感じますか。

A 登下校する子どもや地域の方から「ただ、おはようございます」「ご苦労様です」の声が何よりもやりがいと元気の源

です。隊員としてのプライドや自分の交通マナーも向上したように感じます。

Q 活動にあたって課題などがあれば教えてください。

A 新型コロナウイルスの影響で啓発活動等も縮小を余儀なくされています。また、隊員の高齢化が進んでいます。若い人にも参加してほしいですね。女性も大歓迎です。

Q 今後の活動等を教えてください。

A 高齢者の死亡事故が増えていきます。高齢者向けの交通安全教室を実施したいですね。

Q 町への要望があれば、教えてください。

A 小中学生が安心して登下校できるよう、歩道を拡げるなど環境整備をお願いいたします。

取材／中島数宜

光本一也